

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

平成31年3月14日（木）

【報告事項】

1 出資法違反事件被疑者の逮捕について

（生活安全部）

警察本部から「博多警察署ほか3警察署及び生活経済課、捜査第二課は、業として金銭の貸付けを行うに当たり、客から法定金利を超える利息を受け取っていたという出資法違反事件について、3月7日、福岡市博多区居住の五代目工藤會傘下組織幹部ら5名を逮捕した。今後、徹底した捜査を実施し、犯罪収益の流れ等事件の全容解明を図る。」旨の報告があった。

公安委員から「被害者の貸付額は、概ねどのくらいか。被害者は、自ら電話をして貸付を申し込んだのか。同種事件の検挙をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「貸付額は、概ね数万円程度である。被害者は、融資を持ちかけられ、貸付けを依頼している。」旨の説明があった。

公安委員から「090金融は、犯人の追跡が難しいと思うが、端緒は、特殊詐欺事件なのか。勤務先を保証人と偽証し、上司が代わりに返済するという事例もあるので、取締りの徹底をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「ヤミ金を発端に拠点を捜査していたところ、特殊詐欺事件についても判明したため、特殊詐欺事件を先行して逮捕している。」旨の説明があった。

公安委員から「貸付けを行うための原資はどれくらいか。工藤會系幹部の検挙であり、非常に意義のあることである。引き続き、取締りの強化をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「原資等については現在捜査中である。引き続き徹底した取締りを実施していく。」旨の説明があった。

2 平成30年中における児童虐待及び子供の性被害の状況について

（生活安全部）

警察本部から「平成30年中に、全国警察が児童相談所に通告した児童数は、80,252人で、平成16年以降最多となっており、県内では、3,737人で、前年比364人の増加となり、全国で7番目の通告児童数になる。県内の児童虐待による事件検挙件数は、83件85人で前年よりも増加の傾向にあり、全国では5番目の検挙件数になる。子供の性被害状況については、児童ポルノ事件の検挙件数及びSNSに起因する事件の被害児童数が、前年比で増加している。今後もサイバー補導を継続して実施するとともに、福祉犯被害の割合が高い中高生に対する広報啓発の推進と各種法令を駆使した積極的な事件化、さらには、インターネット環境に接する初期段階である小学生に対して、通信事業者と共同した啓発活動を推進することにより、福祉犯被害の拡大防止に努めていく。」旨の説明があった。

公安委員から「児童虐待については、事件検挙が全国5位と成果が認められる。今春、新設されるDV・ストーカー関係の部署が、児童虐待事案とDV・ストーカー事案を担当するのか。面前DVについては、関係する部門間で情報共有を行っていただきたい。」旨の発言があり、警察本部から「現在、児童虐待事案については、少年課、DV・ストーカー事案については、子ども・女性安全対策課が担当しており、4月1日から、人身安全対策課が新設され、DV・ストーカー事案に加え、執務時間外における児童虐待事案を担当する。面前DVを含む児童虐待事案については、部門間の連携はもとより、関係機関とも連携を図りながら、情報共有を行っていく。」旨の説明があった。

公安委員から「小学生に、携帯電話を持たせることは、災害対策の点でも重要であるが、SNSに関する広報啓発等が必要であり、今後も対策をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「今後も各種対策を推進していく。」旨の説明があった。

公安委員から「児童虐待については、最近も全国で深刻な事案が発生し、子どもの安全確保のための取組の強化が求められている。他機関と良好な関係を構築し、事案の早期把握と児童の安全確保を最優先とした対応をお願いする。」旨の発言があった。

3 福岡市南区における男性殺人事件被疑者の逮捕について

(刑事部)

警察本部から「南警察署及び捜査第一課は、福岡市南区において発生した殺人事件について、3月10日、福岡市城南区居住の無職の男性を逮捕した。今後も引き続き強力かつ徹底した捜査を進め、事件の全容解明に努めていく。」旨の報告があった。

4 官製談合防止法違反等事件被疑者の逮捕について

(刑事部)

警察本部から「豊前警察署ほか5警察署及び捜査第二課は、築上郡築上町が執行した建設工事の一般競争入札をめぐり、特定の会社に有利な入札要件案を作成したほか、非公表である入札参加予定業者数等を教示して、同社に落札させ、公正な入札を妨害した事実で、官製談合防止法違反により築上町環境課長を、公契約関係競売入札妨害により同社の会社員を逮捕した。今後、徹底した捜査を実施し、事件の全容解明を図る。」旨の報告があった。

公安委員から「先報告の殺人事件の検挙と同様に、捜査力を発揮し、検挙に結びつけており、素晴らしいことである。今後も同様の取組をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「今後も、徹底した取締りを実施していく。」旨の説明があった。

5 五代目工藤會の第10回指定に係る意見聴取の実施について

(暴力団対策部)

警察本部から「北九州市小倉北区に主たる事務所を有する五代目工藤會については、指定暴力団として、10回目の指定を行うため、平成31年4月4日に警察本部において当県公安委員会委員を主宰者とする意見聴取を実施する。」旨の報告があった。

6 ベトナム人による組織的窃盗事件捜査の終結について

(暴力団対策部)

警察本部から「宗像警察署及び国際捜査課は、SNS等で知り合い、全国各地の技能実習先から逃亡したベトナム人が、関東、中部、九州の3管区8県下においてドラッグストア等を対象に、化粧品等を大量に窃取した組織的な窃盗事件について所要の捜査を推進した結果、ベトナム人6名を逮捕し、窃盗(万引き)109事件、被害総額約1,250万円を敢行したことを確認し、そのうち窃盗3事件及び不法残留3事件を送致して捜査を終結した。今後も、取締りを徹底していく。」旨の報告があった。

公安委員から「ドラッグストアに防犯カメラが設置されていることを、犯人らは認識していたのか。技能実習生が起こした事件ということも問題である。」旨の発言があり、警察本部から「犯人らは、防犯カメラがあることを認識していたが、住居を転々とし、広域で敢行しているため、捕まらないと考えていたと思われる。本件技能実習生は、実習期間が終了し、在留期間が過ぎれば不法就労となり、正業に就けなくなったことから、窃盗等で得た収益を自国に送金していたものである。」旨の説明があった。

公安委員から「コンビニではなくドラッグストアを狙った理由はあるのか。被害が大きくならないよう、早期検挙に努めていただきたい。」旨の発言があり、警察本部から

「ドラッグストアの商品の方が高額で取引できるため、ドラッグストアを狙ったものである。引き続き早期検挙を目指し、徹底した取締りを実施していく。」旨の説明があった。

7 平成30年中の交通事故の発生状況等について

(交 通 部)

警察本部から「交通事故の発生状況は、発生件数及び死者数ともに前年比で減少しており、死者数は136人と、昭和21年以降、3年連続で最少の数値を記録し、全国9位の数となっている。特徴として歩行者が犠牲となる死亡事故が68件と増加し、全死者数の5割を占めており、高齢運転者による交通事故については、前年比で減少しているが、事故全体に占める割合は、年々増加傾向にある。今後、横断歩行者等妨害の取締りや横断歩行者マナーアップ運動等を推進するとともに、高齢歩行者に対する反射材用品の着用率を向上させる取組を推進していく。飲酒運転事故の発生状況は、発生件数については、144件と前年比で18件増加している。飲酒運転事故については、酒酔い運転、高濃度アルコール保有者の事故が全体の約8割を占めており、30歳未満の割合が高くなっている。今後、より確度の高い飲酒運転通報を獲得するために職業運転者に対する通報意識を高める取組を推進していくほか、運転免許取得前の若年層を対象とした交通安全教育を実施していく。交通違反の検挙状況は、前年比で減少しているが、最重点罪種である横断歩行者等妨害や重点罪種である信号無視等の検挙は増加している。今後、道路横断中の交通事故抑止に向けた取締りを強化するほか、可搬式速度違反自動取締装置による速度超過の取締りを推進していく。」旨の報告があった。

公安委員から「飲酒運転事故について、福岡は全国的にも注目されていることから、引き続き徹底した対策をお願いする。」、公安委員から「飲酒運転事故の年齢別について、20歳未満の数値はどうなっているのか。飲酒運転については、当県は、全国的に見てどうなのか。」旨の発言があり、警察本部から「飲酒運転事故の年齢別で、20歳未満については、5件発生している。飲酒運転事故の発生は、平成18年と比較すると、現在4分の1の数値まで減少しているものの、全国的に見ると、ワースト6位で、ここ数年は、飲酒運転事故の減少率も横ばいになってきている。」旨の説明があった。

公安委員から「交通事故の時間帯別で、通勤通学時間帯の発生が多いが、横断歩道以外の場所での死者のうち高齢者以外の6名は、学童が多いのか。」旨の発言があり、警察本部から「高齢者以外の交通事故死者で、学童が被害者となった事故は、6件中1件である。通勤通学時間帯に交通事故の発生が多発しているが、学童が被害者となる事故が多いわけではない。今後も徹底した取締りを実施していく。」旨の説明があった。

【その他の報告事項】

警察本部から「18日は、交通課長会議を開催する。19日は、聖火リレー福岡実行委員会に出席する。」旨の発言があった。